人に、自然に、やさしい地域づくりを目指して

和と風と

2011.12.27

No.37

社会福祉法人　潤沢会
ワークステーション湯田・沢内
〒029-5612
岩手県和賀郡西和賀町沢内字大野13-28-4
TEL0197-85-2019　FAX0197-81-2015
編集人／髙　橋　和　也
発行人／坂　巻　　熙
印　刷／鶴田印刷株式会社

障がい者雇用過去最高
～西和賀町の現状は～

厚生労働省は十一月二十五日、民間企業（五十六人以上）に雇用された障がい者が、六月一日現在三六万六一九九人に上り、過去最高を更新したと発表しました。同省は、障がい者の雇用の場が、民間で着実に拡大していると見ています。

西和賀の現状はどうでしょう。今回は、町の障がい者雇用を考えてみます。

様々な作業を通して、個々の目標に向かいます

障がい福祉は、施設生活から地域生活へという考え方が、進んでいます。地域で自立した生活を実現する条件の一つに、働く場の確保と、それに見合った賃金（収入）が必要不可欠です。

障害者雇用促進法では、事業主に対し、常時雇用する従業員の一定の割合以上の障がい者を雇うことを義務付けています。一般の民間企業（五十六人以上規模の企業）の法定雇用率は一・八％。岩手県の法定雇用率達成企業の割合は五一・六％となっています。全国平均の四五・三％を上回っているものの、約半数の企業は一・八％に届いていないのが現状です（※）。

町や地元企業に期待

国、地方公共団体（四十八人以上規模の機関）の求められる法定雇用率は二・一％。岩手県内の市町村の機関の実雇用率平均は、二・二二％となっています。一方、西和賀町では三・六四％。県内の各市町村の機関と比較してもトップの実雇用率です（※）。

また、法定雇用の対象でない地元企業の中にも、障がい者雇用に積極的な企業も。靴製造工場の㈱ジェノバでは、三名雇用しています。

雇用率や雇用義務に捉われない、町や地元企業の意識に今後も期待です。

多くの選択肢やチャンスを

西和賀は民間企業が少なく、公共交通機関も決して便利とは言えません。町外への就職を考えると、生活の場、移動手段など、多くの課題を克服しなければなりません。

現在、西和賀町で何らかの障がいにより、手帳を取得している人は、五九二人（障がいが重複している場合もあり、実際の人数ではない）。そのうち〇歳から一九歳が、全体の約二％、二〇歳から三九歳が約八％、四〇歳から六四歳が約二〇％、六五歳以上が約七〇％となっています。

現在、行政や町商工会、関係機関で構成される、町障害者自立支援協議会就労支援部会も、企業へのアンケート調査や訪問など、就労支援に取り組んでいるところです。

全ての人が、町内での生活、就職を希望しているとは限りません。しかし、「町で暮らしたい」「仕事がしたい」という人がいるならば、少しでも多くの選択肢と就労のチャンスが必要です。

髙橋　和也

※＝厚生労働省　岩手労働局　岩手県における障害者雇用状況の集計結果　平成二十三年六月一日現在　より

達成感得られる研修旅行を目指して

ワークステーション利用者の最大のお楽しみ行事となっている『一泊研修旅行』。今年も十月二十六日（水）、二十七日（木）の一泊二日で、秋田県の田沢湖へ。今回は、二コースに分かれました。準備された食事や移動手段ではなく、自分たちで考え、行動し、旅行を楽しむことが今回の目的。どちらのコースも新しい挑戦、発見のある研修旅行となりました。

「間違わないように！」と乗車券を買う利用者

この十年で利用者も十歳増しの年齢となり、体力的にも機能的にも介護度が高まっています。反面、就労を目指している若年の利用者もおり、全員がひとつバスで同じ日程での研修に無理があるのではないかと考えました。ここ数年は希望コース別の研修をしてきましたが移動は職員運転のバスです。そこで、更なるステップアップをした計画で、公共交通機関利用コースを設定。九人の希望者と職員の一〇人でいざ、県交通バスに乗り盛岡まで。車中は普段の送迎バス同様、我が物顔で大声のおしゃべりです。さすがに乗客が増えてきた時には「シー」の合図。盛岡駅からいわて銀河鉄道を使い青山駅下車、徒歩十五分ほどで見学先の「岩手障害者職業訓練センター」に着きました。センターでは職業訓練の様子を見学し、実際に訓練や適性検査を体験。そして、就職するために必要な①挨拶と返事②話をよく聞く③時間を意識した仕事④考え工夫する大切さなどの説明を皆さん真剣な表情で聞き、事前学習をしていたこともあって一人々が質問をすることが出来ました。

見学を終え気持ちに少し余裕が出て、自動発券機の使い方もスムーズに。駅での待ち時間は、混み合うカフェでティータイム。これまた初めての経験で、息もできぬほどの緊張の様子。早々に店を出ました。田沢湖線に揺られ、夕暮れの岩手山や紅葉真っ盛りの渓谷を車窓から眺めながらバス移動グループの待つ田沢湖ホテルへ向かいます。

ワークステーションの皆が一堂に会する宴会場では、今日の様子をプチ自慢し、精神的にもステップアップ。

二日目は、田沢湖駅から大曲駅まで行き、駄菓子屋と軽食喫茶経営している就労継続B型事業所「ほっぺ」を見学。昼食を済ませて、見慣れた風景のほっとゆだ駅へ。

バス移動コース初日は、大仙市で廃校を利用した多機能型事業所「まつくら」を見学。地域の特性を活かした作業は花火玉づくり。「学校を施設にするなんてスゴイ！」と利用者も驚き。昼食は、ショッピングセンターで。予め準備されたものではなく、もちろん注文、支払いは自分で。緊張しながらも「昼食のためだ」と勇気を振り絞って注文していました。翌日は、道の駅雫石あねっこで家族にお土産。

今回の研修旅行は、交通手段別に分かれ、内容をみて希望のコースを自分で選ぶところから研修が始まりました。参加し自己を高め、大宴会で歌って踊って大ブレイク！お天気に恵まれた田沢湖遊覧船から見る景色も最高のリフレッシュ！

来年も一人々が達成感を味わい、わくわくしながら挑戦できる企画を早くも構想中。

高橋　育子

廃校を活用した施設見学。みんな興味津津！！

復興を願った収穫祭

一生懸命取り組んだ農作業も無事収穫を終えました。その喜びを分かち合おうと、「ワークステーション大収穫祭」が十月十七日（月）当施設交流ホールで開催されました。メニューは、あんこ・みたらしを絡めたお餅、大根や人参の入ったおでん、漬物、芋の子汁、赤飯、そして三陸直送の秋刀魚の炭火焼。

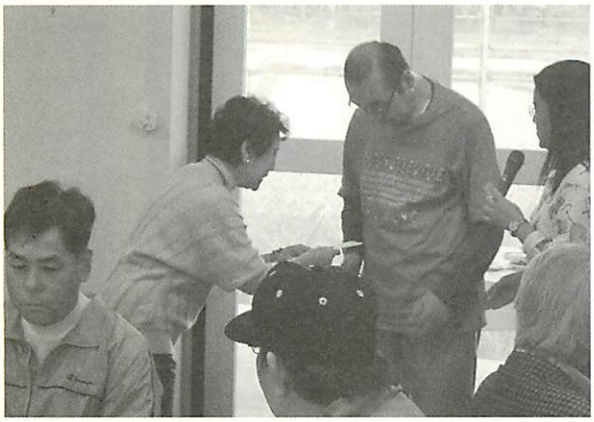
今年は、以前から交流のある障がい者施設「さんりく・こすもす（岩手県・大船渡市）」の利用者・職員三十五名もご参加いただきました。

沿岸部は、まだまだ震災の影響が残っています。西和賀の温泉に入り、採れたての食材を使った料理で、少しでも元気をというのが目的。これに賛同してくださった、地域の方や町の婦人会、当施設の保護者会も、朝から準備を手伝ってくださいました。

また、ワークステーションの姉妹施設、「社会福祉法人　ほかには共和国　理事長　志賀俊紀　氏（長崎県・加津佐）」から義援金が届きました。当法人の坂巻潤子相談役が代理で「さんりく・こすもす」の利用者・施設長へ手渡しました。

収穫の喜びと、被災地の復興を願い、人と人とのつながりの大切さを実感した収穫祭となりました。

高橋　和也



長崎の姉妹施設から義援金が贈られました

「こだわり弁当」三六五日お届け

食材にこだわり、メリハリのある味を三六五日お届けする、沢内地区を対象とした配食サービスがスタートして八カ月が過ぎました。今では、町の委託サービスで賄いきれない部分の配食希望にも応え、休日は湯田地区からの注文もあります。また、高齢者・障がい者の方への配食サービスだけではなく、一般の方にもワークステーション「ふるさと弁当」の魅力が伝わって来たことを実感しています。年越し、お正月も、暖かみのあるメニューで皆さんにお届けします。

地域の方に必要とされる、なくてはならないお弁当になるよう、これから更にタスキを締め直し頑張っていきます。どうぞ是非一度「ふるさと弁当」をお試しください。

高橋育子

雨が降ろうと、雪が降ろうと、
弁当をお届け致します

「風声」

理事長
淑徳大学名誉教授
坂巻　熙

定年延長ハンターイ

一体、国会議員は何をしているのか？そんな不信感が、大阪ダブル選挙の結果を生んだのだろう。日本が、東日本大震災を始め、沖縄、ＴＰＰ、不況、財政赤字、高齢化、領土問題などなど、国難ともいうべき時代に直面しているのに、既成の政党は、権力争いにうつつを抜かしているとしか思えないのだ。

税と社会保障の一体改革と称して、消費税は上がりそうだし、年金の支給年齢も・・・。国民に負担を強いる前に、国会議員の定数削減や公務員の賃金カットなどなど、自分達の身を切る姿勢を示すのが先である、と、嫌味の一つも言いたくなる最近の政治である。

その年金にからんで出てきたのが、企業定年を、今の六〇歳から六五歳に法律で引き上げ、そして年金も六五歳から支給する、という構想だ。

だが、ちょっと待ってほしい。いつまでも働きたい高齢者には嬉しい話だが、それだけ若い人の仕事を奪う事にならないだろうか。今仕事のない若者が、未来に希望のもてない若者が、巷にあふれているのだ。年金も若者に支えられて成り立つ。

もちろん人の生き方はそれぞれだが、僕は、高齢者には高齢者にふさわしい働き方があるのではないか、と思っている。稼ぐための働きから、尽くすための働きである。

働かなければ生きていけない人は別である。だが、〝真面目に〟働いてきたサラリーマンなら、定年後も、ほどほどに暮らせる程度の年金や貯えがあってもいいだろう。若者と競うのではなく、支えるような生き方をすることだ。戦中のスローガン「贅沢は敵だ」で育った世代に、それが出来ないはずがない。

それは国会議員にも言えること。もういい加減に引退したらどうか、と言いたい〝大物〟が、何人もいるんじゃなかろうか、と、思うのだが・・・。

福祉で地域起こし

～町育成会　厚生労働大臣表彰に輝く～

多くの方々に支えられているふるさと宅急便

西和賀町手をつなぐ育成会（会長　高橋努）は、平成二十三年度ボランティア功労者の厚生労働大臣表彰に輝きました。

育成会は、昭和四十五年に知的障がい者の保護者等で組織された、沢内村心身障害児（者）を守る会が基になっています。団体名の変更や、町村合併での団体統合を経ながら、四十一年間に渡って町内の障がい者福祉を支えてきました。

特に昭和六十年開所した、旧沢内村福祉共同作業所の目玉事業「ふるさと宅急便」の支援をしてきました。この事業は平成十四年からワークステーション湯田・沢内に引き継がれていますが、現在も支援は続いています。この二十六年間に及ぶ活動が受賞の大きな理由です。

ふるさと宅急便の会員は約二五〇名、主に首都圏の人たちです。都市と農村を結ぶ事業で、その主体に障がい者が居るという事です。これがきっかけで「花宅急便」もスタートしています。会社や個人の贈答品として、お中元やお歳暮用品としても年々人気が高まっています。また、オートバックス共済会では、年間三〇〇組も誕生する新婚カップルへのお祝い品にワーク特製品を活用しています。このような、福祉の側からの地域起こし事業を長年支えてきた功績が認められたものです。これからの活動も大いに期待したいと思います。

施設長　高橋　典成

ありがとうサーポーターさん

西和賀町手をつなぐ育成会長

高橋　努

ワークステーションの皆様方には大変お世話になっております。西和賀町手をつなぐ育成会の会長として、あらためて感謝申し上げます。

我が育成会は発足から四十一年目の今年、厚生労働大臣ボランティア表彰という名誉ある賞をいただくことができました。これも町民の皆様や関係各位のご理解とご協力の賜物だと存じ上げます。

さて、今年は三・一一の震災があり、誰もが先の見えない不安と、現代社会の無力さを感じたのではないでしょうか。西和賀町は大きな被害もなく、ワークステーションも早くに通常の活動ができたことは、幸いだったと思います。

大きな余震の後、停電している中で通常どおり受け入れていただいたとき、拠りどころとしてのワークステーションを強く感じました。

私の兄は施設開所当時からお世話になっていますが、それにともない私自身も職員の方々、保護者の方々と知り合い、障がい者福祉を考えることができました。

これからも、保護者、ボランティア、地域の方々、職員が連携し、障がい者支援ができればよいと思います。

これからも、楽しく、明るく、笑顔が絶えない、そんなワークステーションであってください。

絆の大切さ実感

～ふるさと交流会in東京～

毎年開催している「ふるさと交流会」が十一月二十三日（水）、東京都飯田橋の「東京ボランティア・市民活動センター」を会場に開催されました。

これは、当施設の事業の一つである「ふるさと宅急便」の受け手（都市住民）と送り手（西和賀）の交流事業。参加者は、西和賀町出身者や心の故郷にしてくださっている方々です。また、看板を見て興味をお持ちになった飛び込みの参加者も。

今年は未曾有の大震災がありました。震災から間もなく、交流会参加者や宅急便会員から、ご心配と温かいお言葉をたくさんいただきました。会場内でも「今年はお会いできないと思っていた」「本当に良かったぁ～」と、あらためてお互いの無事を喜びあいました。郷土料理を囲みながら、絆の大切さと、来年の再会を誓い合った交流会は、惜しまれつつ閉会となりました。

高橋　和也

交流会参加者と交流する利用者

古希のハッピートーク No.6

バーの片隅。輝かしいキャリアウーマン。独身で今を迎えた友人のA子の話。

直立不動で深々と頭を垂れている防衛大臣。ソファーに座ったままで憤然として謝罪を受けている沖縄県知事をTV報道で見ていた時に、突然あのシーンが脳裏に。

「悪かった！」と直立不動で謝る彼をソファーにふん反り返って傲慢に「帰って！一人にして！」と、とりつく島も与えず追い返した青春の一コマが。携帯電話もPCも無かった頃の事。

「私も悪かった」と謝る術もないまま、彼についての風の噂もいつしか消えて。

女性の総合職なんてちやほやされて、男性並みに働いた。在職中は、おひとり様の友人とグルメ、ファッション、海外旅行。自由気ままな一人暮らし。

でも、今年のクリスマスはシングルベル。TVも街も、「ご家族様」か「カップル様」仕様。と泣き上戸の彼女をあやしながらも、私、心の中で、連れの好物、くず餅買って早く帰ろう。もうすぐ老夫婦のおだやかなクリスマス。プレゼントも期待して。と、友だち甲斐のない私なのです。ごめんねA子。

（相談役　坂巻　潤子）

地域の施設との交流を通して

久々のステージに「ガチガチ!?」の利用者

十二月二十二日（木）、町内にある高齢者施設「かたくりの園」の忘年会に、当施設のハンドベルグループ七名と町内の「ハンドベルの会りんりん」の皆さんと一緒に参加してきました。毎年、当施設でのクリスマス会でハンドベルを演奏するのが恒例です。昨年からは、「りんりん」の皆さんと合同で演奏を行っています。今年もクリスマス会に向けて、合同練習を四回行いました。「りんりん」の皆さんが優しく教えて下さり、利用者にとっては、とても頼もしい存在。そこに、高齢者施設のデイサービスセンター「かたくりの園」から、利用者忘年会にぜひ！と、ラブコール。

当日は、朝から緊張気味の利用者。「りんりん」の皆さんから優しく声をかけられ、緊張がほぐれていきます。そのおかげで本番では、練習した成果を発揮し、立派に演奏することができました。高齢者の「上手かったねぇ」という声、そして拍手にうれしそうな利用者たち。このことは、大きな自信となったはずです。

同じ町内に住んでいても、交流する機会はあまりありませんでした。こうした交流は、お互いのことを知るためにもいい機会です。これからもこうした機会を増やしていき、地域の施設との交流が増えればいいと思います。

千葉　伶奈

雪も溶ける？クリスマス会

平成二十三年のクリスマス会が十二月二十四日（土）のクリスマスイブに行なわれました。まずは、クリスマスランチ。唐揚げやスパゲッティ、炊き込みご飯などおいしい料理がいっぱい。みんな大満足でした！午後の部は、お楽しみ会。最初は、ハンドベル演奏。加茂先生とハンドベルの会りんりん様ご協力のもと、この日のためにみんながんばって練習してきました。見事、その成果が出ていましたよ！次は、利用者の余興。仮装、歌、踊り、みんな楽しそうでした！その次は、利用者と職員の昔の写真を映像で流し誰かを当てる、という初めての企画。スクリーンにみんなの子供の頃や学生時代、結婚式の写真などが流れるたびに大歓声。今とはまるで違う昔の姿にみんな大盛り上がり！そして、松井秀文様より恒例のプレゼントとなっているチーズケーキをみんなで食べ、最後にはこれも恒例の新井千賀子様からチョコレートなどが入ったクリスマスプレゼント！雪で一面真っ白になった西和賀ですが、この日の熱気で雪も溶けそうなホワイトクリスマス会となりました。

高橋　健一

「メリークリスマス」とみんなで乾杯！！

地域トピックス

ワラビ談義（その四）

ワラビの里、ここ西和賀ではワラビの栽培面積が着々と増えている。減反田で二十四㌶とカウントされたし、畑や旧牧草地を含めると三〇㌶は優に超えていると思われる。日本はおろか地球上どこにもある何の変哲もないワラビ。たかがワラビなれど、繊維が柔らかくトロッとした独特の食感は評価が高く、「西ワラビ」名で商標登録もされている。「西ワラビ」を超えるワラビは国内では見たことがないと豪語する農家の面々。豪雪の山間条件不利地域にあって、もしTPPが通るような事態になった時は全町の農業をワラビに切り替えるしかないとさえ私は思い込んでいる。

そんな中にあって、最近にわかにクローズアップされているのがワラビ地下茎からの澱粉生産の取り組みである。昔、当地では、飢饉などで食糧が不足した時の救荒食の代表であったし、高級糊の原料として京都方面まで売られていたというワラビ澱粉。これを何とかして売り出したいとその商品化に向けて農家と地元のお菓子屋さんが奮闘中だ。聞けば西日本で毎日のように食されるワラビ餅はその原料を殆ど輸入に頼っていると云う。一〇〇％地元産にこだわったワラビ餅の開発を手がけているのだ。

そこに桑の完全食品性と、免疫賦活効果やアンチエイジング効果等、様々な機能性を次々と論文発表し「桑食文化」を提唱している岩手大学鈴木教授の助言で桑栽培を始めた当ワークステーションに、食品化学の西澤岩手大学名誉教授が桑とワラビ餅のコラボレーションを提案してくださった。

正に天の時。利用者は勿論、理事長以下の全役職員が「坂の上の雲」の先に光明を見出した思いで関わろうとしている。

皆さん、売り込みに伺がった際は是非お買い上げください。

西和賀町議・潤沢会理事長代理　湯沢　正

「まごころ工房」リニューアル

北上市にある、江釣子ショッピングセンターパル内の「まごころ工房」が、十一月十七日（木）リニューアルオープンしました。その名も「ハートフルショップ　まごころ」。

このお店は、県や市、ショッピングセンター・パル様など、多くの関係機関からご支援いただき、北上・西和賀地区の障がい者福祉施設が協同で運営。各施設のこだわり商品が揃う、おしゃれで、ちょっと覗いてみたくなる、そんな雰囲気のお店です。

当施設でも、県産小麦・天然酵母の手作りパン（毎週土曜日納品）や各種ジャムなどを販売中。赤と青の旗が目印、是非一度お立寄りください。

高橋　和也

おしゃれなお店ができました

湯けむり日記

家庭のような時間

私は今年四月から、ケアホーム「湯川ハウス」で宿直員兼世話人をしています。ケアホームの利用者は、地域の行事や休日に散歩しているのを見かける程度。正直、不安な部分もありました。

東日本大震災から約一ヶ月、二度目の大きな地震、停電がありました。その時、頭を過ったのは、利用者の食事や明かりをとるための方法など・・・。できる限りのことをし、無事過ごすことができました。それから約八ヶ月が過ぎ、今ではいろんな事を聞いたり、話したり。食事当番の時は「おいしい」と喜んでくれました。また、勤務が終わり、帰る時間になると「ごくろうさん！気をつけて！また今晩も宜しく。」と言ってくれます。当り前のようなことですが、「湯川ハウス」には家庭のような時間、心の温かさを感じます。この温かさは、毎日大浴場で、天然の温泉に浸かっているおかげでしょうか？

時には皆でお出かけ～♪

皆さんも一度「湯川ハウス」へ来てみませんか。体験宿泊も歓迎です。

鈴木　武雄

施設長敬白

三・一一東日本大震災以降、地震、津波、放射能等の影響を考えて、どのような居住環境にするかに関心が高まっています。

津波の被災地では、住居を元の場所にするか、高台に移転するかの議論が続いています。その時に西和賀町内の長瀬野で、四〇年前に実施した集落移転事業が参考になるというのです。一戸、一戸が独立しては集落が消えてしまう、集団移転し連帯感で新たなコミュニティづくりを実現した取り組みです。「通勤漁業」も可能ではないかという提案です。

「居住福祉」という概念があります。安全で安心できる「居住」は、人間生活の基盤であり、社会福祉の基礎であるという考え方です。

介護保険が掲げる在宅介護は、不便な住居では実現しません。障害者自立支援法で目標としている、障がい者の地域生活は、皆で支え共に生きる居住環境が必須です。

障がいがあっても、高齢になっても、地域で安心して暮らすためには、住居や居住環境の整備が必要となります。対人福祉サービスのみではないのです。

西和賀はこれから深い雪に覆われ、家の中での暮らしが続きます。「寝たきりは冬につくられる」から何としても脱したいものです。

施設長　高橋　典成

編集後記

町は銀世界。そんなロマンチックではありません。もっと雪を活用できないかなぁ～。

高橋　和也